

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

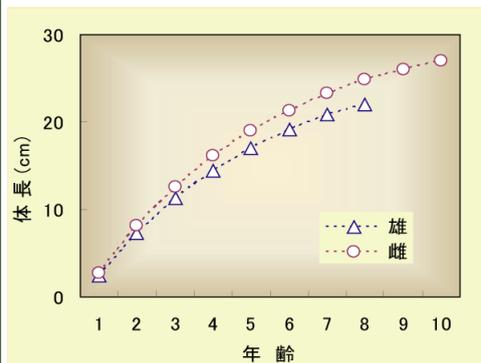
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳
 成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
 産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
 索餌期・索餌場: 夏～秋季に沖合の陸棚上
 食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
 捕食者: 不明

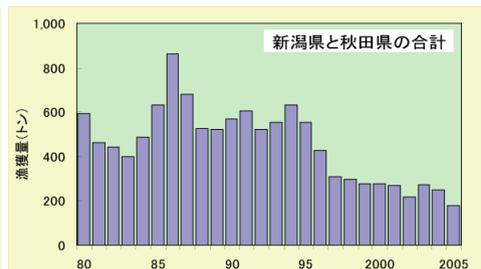
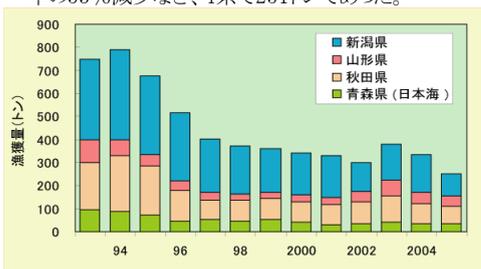


漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺網漁業である。その比率は、漁獲量(2005年)でみると底びき網漁業で57%、刺網漁業で35%と全体の9割以上を占めている。また県別にみると新潟県と秋田県の漁獲に占める割合が高い。

漁獲の動向

日本海北部4県(新潟県、山形県、秋田県及び青森県)の漁獲量が把握されたのは1993年以降に限られる。1980年以降の資料がある新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られるものの、1995～1997年に大幅に減少した。その後ゆるやかに減少傾向が続いているが、2005年には新潟県の底びき網で前年の53%減少など、4県で251トンであった。

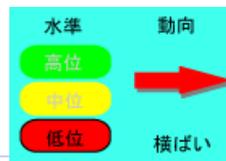


資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種ではないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計データが無い。したがって、日本海北部4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行った。資源動向の参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び新潟県による幼稚魚分布調査の結果を参照した。

資源状態

2005年の漁獲量(251トン)は、特に新潟県での減少が大きく影響した結果であったが、資源水準は全域で低い水準にあると思われる。動向は、(1) 板びき網漁業(新潟県)及び沖合底びき網漁業(1そうびき: 男鹿北部)のCPUEは、1990年代後半からは横ばいないし増加していること、(2) 2005年の漁獲量減少には、時化や大型クラゲの漂着等による漁獲努力の減少が影響していると思われること、さらに(3) 幼稚魚の漁獲加入量が2006年及び2007年には増加することが期待されることから、これらを総合して横ばいにあると判断した。



管理方策

2005年時点での資源水準は低位で動向は横ばいにあると判断された。本種は底びき網や刺網で主に漁獲されるが、必ずしも主対象の魚種でないことが多い。その実施は困難であるが、漁獲量の上限がある程度おさえることで、特に3歳魚の生き残りを増やし、翌年の漁獲加入年級への負担を減らすとともに、産卵への加入を少しでも増やすことが必要である。また、産卵親魚をより積極的に確保するため、実効ある全長制限を導入することが望ましい。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	260トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCtarget	210トン	0.8・0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量の推移や参考となる漁業・調査情報から、資源水準は低位、動向は横ばいと判断される
- 資源水準の回復・維持のため、漁獲量をおさえる必要がある

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復・維持のためには、漁獲量の上限をある程度おさえることで、若魚(3歳魚)の生き残りを増やすことが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。